



山の原風景を庭に取り込む

庭木と、その先に広がる田畑や山が、ひと続きの景観として日常の暮らしに溶け込んでいる。裏山から流れ込む雨水が敷地内に溜まりやすく、建物周囲に湿気を帯びることが住まい手の長年の悩みだったが、敷地の高低差を生かして庭の一部に小な溪流をつくり、排水計画と景観をうまく組み合わせた。水の流れを渡る橋のように設えたアプローチには、樹々が木陰を落とし、その中を通り抜けながら玄関までたどり着く。



所在地：静岡県周智郡森町  
 家族構成：親夫婦 + 子夫婦  
 規模：木造平屋建て  
 敷地面積：780.08m<sup>2</sup>  
 (230.50坪)  
 延床面積：169.05m<sup>2</sup>  
 設計施工：(有) 扇建築工房

### 三つ屋根の住まい

緑豊かな山間の土地に、仲の良い2世帯が暮らす分棟平屋。敷地の東側には田畑が広がり、西側には道路を挟んで山を背負う。高低差のある敷地形状を生かすため、住宅は中央棟、北棟、南棟の3つに分かれている。この3棟すべてを東側の田畑に開き、美しい風景を眺めながら豊かな自然の中で寄り添って暮らすことのできる住まいとした。2世帯住宅でありながら、LDKや洗面・脱衣室などの共有スペースのある中央棟には常に家族が集う。田園風景を日常に取り込む中央棟は、家族が心地良い時間を共有する場となっている。

囲炉裏のある南棟のあずま屋は、外物置や農作業の休憩所として機能するほか、家族や地域の人との交流の場にもなっている。開放的な空間で炎を囲みながら歓談に花が咲く。半屋外空間で感じる囲炉裏の暖かさは、利便性や合理性の追求からは生み出せない豊かさがある。



地産地消の木の家

構造材・内装材にも地元天竜の杉と桧を使い、真壁造りによってその美しさが一層際立つ。外壁材には古くから伝えられる焼杉技術を施している。表情豊かで独特の光沢感ある色合いが、環境に馴染む佇まいを生み、まちに優しく接する住まい手の態度として表れている。ゆっくりと時間をかけて変化していく風合いは、現代の住まいづくりに多用される化成品からは得られない、時間的価値を生み出す。

